
超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

鳴神 ソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

【Nコード】

N5885X

【作者名】

鳴神 ソラ

【あらすじ】

真王さんから許可を貰い書きます「超次元学園へようこそ！！」のスマハツバージョンです！！主に、マリオや空達がメインになります！真王さんの本家やなめ猫さんが書かれてるアナザーストーリーと平行して進んで行けたら良いなと思います

第1話：ハートレス退治と新たな転校生（前書き）

と言う訳で始まりました！『超次元学園へようこそ！！』のスマハ
ツバージョン！！

マリオ「最初の話はなめ猫が書いてるアナザーストーリーの13話
「スパイダー！！！！」と平行したお話だ」

ルイージ「それでこっちのキャラをね」

第1話：ハートレス退治と新たな転校生

マリオ「とあっ！！」

飛び掛るハートレスの集団をマリオは蹴り飛ばした後にファイアーボールで飛ばす。

リュウケンドー「いきなり過ぎるよな！！」

ソロ「まっただな！」

ゲキリュウケンとキーブレードを振るいながらポッドスパイダーを倒すリュウケンドーの後ろでソロがウルトラゼロランスとゼロライザーを振るいながらソロがリュウケンドーの言葉に同意する。

スネーク「それにしてもマザーはどこにいるんだ！」

ルカリオ「今探してる所だ！！」

ネオス「なるべく早くお願いします！！」

ネクサス「……………同じく」

ロケットランチャーでポッドスパイダーを吹き飛ばして聞くスネークにルカリオはそう言い、明久が変身したネオスが急かし、ムッツリーニが変身したネクサスがそう言う。

そんなメンバーとは別に外では…

???「おお、此処が超次元学園か！」

超次元学園の校門前で身長はベールと同じ位で髪が膝まで伸びていて色は青色、目も青色で服装は上は東方の文の服をベースにアレンジした感じで腋や肩が露出しており、東方の霊夢の様に白い袖を虹色の紐で括り付け、下はミニスカートで青い生地の上に雪の結晶が描かれて、首に白いマフラーが巻いている女性がいた。

腰には6本の剣を差している。

???2「それは良いが…何やらハートレス反応が出てるようだぞ
チルノ」

左手首からした声に女性、チルノは右手首を顔の前に持って行く。

その手首には龍型のアクセサリーがついていた。

チルノ「そうなのヒヨウリュウケン？んじゃあ他の皆と合流しますか！」

そう言うと同時に右手首にあった龍のアクセサリーが光り、その後チルノの左手にゲキリュウケンの青の部分を水色に染めた剣、ヒヨウリュウケンが握られていた。

チルノ「んじゃああたいの超次元学園での初めての暴れと行きま
すかー!!」

そう言うと同時にチルノは駆け出す。

リュウケンドー「チヨイサー!!」

もどつて「こちらはあらかたポッドスパイダーを倒し、リュウケンドーはふいふいと顔の汗をぬぐう動作をする。

ソロ「これであらかた倒したな」

ネス「それで後のマザーはいる？」

ルカリオ「もう少し……！大型のが1体こちらに向かって来ている！」

オリマー「もしやそれがマザー？」

周りを見て言うソロにネスはルカリオにそう聞き、感知したルカリオは叫び、オリマーがそう言うと同時に後ろにポッドスパイダーを引き連れて歩くポットセンチビートが現れた。

ソロ「あいつがマザーか？」

マリオ「後ろからどんどん生み出して切り離してるからそうだろうな……」

それ見て呟くソロにマリオはポットセンチビートを見て言う。

ルイーダ「どうする？」

マリオ「そりゃあ勿論、速攻で倒すぞ」

「……」
「それならあたいがやってやるよ……」

そう言うと同時にマリオ達の間を駆け抜けて言ったのは…

リュウケンドー「チルノ!？」

ソロ「何で此処に!？」

マリオ「ああ、俺が真王理事長に頼んでな」

驚くリュウケンドーとソロにマリオがそう言うのとチルノはダッシュした後にジャンプしてヒョウリュウケンの代わりにバスタードチルノソードを下に向け…

チルノ「剣技! クライムハザード!! 別バージョン!!」

ダッシュの勢いでポットセンチビートを後ろにいたポッドスパイダーごと一刀両断する。

チルノ「あたいつてばサイキョーね!!」

そう言うてチルノは残ったポッドスパイダーをヒョウリュウケンで切り裂いた後にきめ台詞を言う。

リュウケンドー「よう! チルノ!」

ソロ「まさかお前も来るとはな」

チルノ「へへん」

マリオ「そーいや…文や白蓮、早苗に大妖精とレティも呼んだ筈だが? あいつ等は?」

駆け寄るリュウケンドーとソロにチルノは鼻を擦る中、マリオが周りをチルノLOVEズ&チルノの保護者を思い浮かべて見て聞く。

チルノ「レティは少し遅れてさ…文や白蓮に早苗は何か喧嘩してて大ちゃんは後で行くからで3人の喧嘩を仲裁してるよ」

マリオ「それにしても…何か遠くから別の気配があるな…」

ルカリオ「何やらハートレスとはまた違う波動だ…近くにカイト達の波動も感じる」

チルノ「ようし！なら早く行こう！」

リュウケンドー「だな！」

ソロ「ああ！」

マリオとルカリオの後にチルノの言葉にリュウケンドーとソロが答えた後に駆け出す。

ルイージ「そう言えばフォックスは？」

スネーク「どこに行ってるんだあいつは？」

ちなみにその途中でマリオ達はスパイダーの真のマザーとぶつかるのは別の話

第1話：ハートレス退治と新たな転校生（後書き）

ネス「と言う訳で作者なりの超次元学園へようこそ！！の第1話でした！」

ルイージ「フォックスはどこに…」

クツパ「まあ、なめ猫の所で分かるのだ」

ピット「だね」

ソニック「感想を待ってるぜ」

第2話・食堂のおでん屋ガノン（前書き）

フォックス「思いつきりタイトル通り」

リンク「ですね」

ワリオ「始まるぞー！」

第2話：食堂のおでん屋ガノン

ハートレス騒ぎ終わった後に来たチルノLOVEズとレティの挨拶が終わった翌日

早苗「チルノちゃん！一緒に食べましょう！」

文「いえ！私と！」

白蓮「私とませんか？」

大妖精「チルノちゃん！一緒に食べよう！」

チルノ「そんなに焦らなくても大丈夫だと思うよ」

昼食の時間と共にわいわいとチルノに集まるチルノLOVEズ、それにレティはくすくすと見ている。

カイト「…何か凄いですね」

銀時「そうだな」

ソロ「そうか？」

空「普通通りだよな」

それを見てカイトと銀時はそう言い、ソロと変身を解いた空が言う。

その言葉に2人はホントに鈍いと思った後に先生陣が集まってる事

に気づく。

カービィ「何か先生陣が集まってるね」

スネーク「なんでも、新しい職員が来たそうだよ」

ソニック「それ誰なんだろうな」

同じく気づいたカービィが呟き、スネークが言った後にソニックが言うつと…

ガノン「ハイ、大根お待ち」

リンク「チクワもOKですよ」

ツッコミトリオ「お前からかよー！」

ガノンとリンクが出て来た事にスマハツでのツッコミトリオがツッコミを入れる。

マリオ「おっ、来たんだな」

ガノン「ああ」

ネプテューヌ「またマリオさんが呼んだの？」

マリオ「ああ、真王理事長にまた言っつてな」

挨拶するマリオにガノンは答え、ネプテューヌの問いにマリオはそう言うつ。

ガノン「俺の部屋の隣はカウンセリング室を兼ねてるからもし相談事があるなら来てくれ」

神楽「と言つか何でおでんを出してるネ」

ガノンが言った後に神楽が聞く。

ガノン「そりゃあ今の俺の本業だしな」

リンク「私はその手伝いですよ…ちなみにこれ以外では皆さんと一緒に勉強しますので」

ピット「と言うか…あんた大丈夫なんですか？」

ガノンの後のリンクにピットが訝しげに聞く。

新八「何かあるの？」

ピット「実践しましょう…レーティアさんとリンク以外は離れて…レーティアさんは魅力のオーラをやっちゃってください」

レーティア「えっ…ええ…」

新八の言葉にピットはそう言い、指名されたレーティアは戸惑った後にリンクを除いた全員が離れたのを確認した後に魅力のオーラを出す。

その瞬間…

リンク「はっ、はっ…ばぐっしゅい…!!」

学園内に響く程のくしゃみをする。

リンク「ばくしゅん!うえくしゅん!!ほっくしゅん!!…!!ばくしゅん!!」

銀八「レーティアストップストップ!!」

レーティア「あっ、はい」

大きいくしゃみを連発するリンクを見て銀八が叫び、レーティアも止めて数秒後にくしゃみは止まり、リンクははあ…と息を吐く。

ピット「この通り、本人は魅力系を感じるとくしゃみしちゃう。魅力系アレルギーなんですよ」

新八「どんなアレルギー…!!!」

ティアナ「どうやったらそうなるんですかあああ!!?」

ルイージ「それが不明なんだよね…」

ドクター「私達でも分かんないのだよ」

ため息をついて説明するピットに新八とティアナは叫び、ルイージとドクターやスマハツメンバーはため息を吐く。

超次元学園にまた新たな生徒と職員が加わったのであった。

…その後、時たまりリンクのくしゃみが響いたのであった。

第2話：食堂のおでん屋ガノン（後書き）

リンク「此処で出しますか！」

フォックス「頑張れリンク」

明久「ファイトです！」

ファルコ「だな」

リンク「うわぁ…色んな意味で不安たっぷり！」

第3話：マリオ達の修行（前書き）

明久&ムッツリーニ「（ガタガタブルブル）」

ルイージ「ご愁傷様…」

スネーク「頑張れ」

第3話：マリオ達の修行

マリオ「400、401、402」

今日も元気に修行しているマリオ

ちょっと違うのは…

カイト「400、401、402」

カイトもやっついていて…離れた場所で明久とムツツリーニが特訓をしていた。

明久「ホントは悪くは言いたくは無いけど叫びます…なめ猫さんの馬鹿あああああああ!!!」

ムツツリーニ「……………師父の練習メニューを勝手に増やさないで欲しい」

綱の上で弾丸の雨しのぎながら明久は叫び、ムツツリーニも避けながら文句を言う。

ミリア「あの2人もやるんだね」

マリオ「まあ、あの2人が俺と同じ修行をしたって言うからな…ちなみに俺は5歳の時、あいつ等は8歳の時にやっているぞ」

カイト「そりゃまた…」

ミリア「凄いね」

マリオの言葉にカイトとミリアはそう言う。

こなた「いや〜こっちも凄いけどあっちも凄いね〜」

かがみ「そうね…」

見ていたこなたはマリオから視線を外して別の方向を見て、かがみも同意してその方向を見る。

ソロ「デアッ！」

空「はっ！」

チルノ「うりゃあ！」

3人がそれぞれ自分の武器や相棒を振るって練習している。

それぞれ一方を2人同時にしたり、別々にぶつかりあってる。

離れた場所でチルノLOVEズがそれを見てる。

レティ「やってるわね」

そこにレティも来る。

ちなみに普段は原作の服だが今回はアドチルの服を着ていた。

レティ「それじゃあ私も行きますか」

そう言うと同時にカードを取り出し、前面に翳すと地面から剣が現れ、それを掴み取る。

レティ「Lingerling!」

そう言うと同時に覆っていた鞆部分が吹き飛び、その刃を見せる。

そして駆け出すと共に空に剣を振り下ろす。

空「うおっ!」

それに空は慌てて防いだ後に吹き飛び、着地する。

レティ「私も混ぜらせて貰うわ」

チルノ「うわぁ…!」

ソロ「厄介だな」

空「確かに」

剣を構えて言うレティに合流したチルノとソロ、空は警戒する。

レティ「はっ!」

ソロ「くっ!」

先ず、レティはソロに剣を振り下ろし、ソロはゼロライザーで防ぐ。

そして左方向から来るチルノをレティは左足で蹴り飛ばすと共に…

レティ「三季と百花を覆う白銀の六花…フラワー」

ソロを吹き飛ばし、反対方向から来た空のお腹に右手を付け…

レティ「ウエザラウェイ!!」

空「うわー!!」

吹き飛ばす。

カイト「やるな…」

マリオ「まあ、レティはあいつ等の師匠の様な存在だからな」

それを終えたカイトが呟き、マリオがそう言う。

数分後

レティ「はい、終わり」

目の前でぐでーとなっている3人にレティは笑顔で言う。

空「やっぱレティつええ…」

ソロ「だな…」

レティ「あらあら、5%しか何時も出してない究極の力を持つ魔弾
剣士さんと光の巨人さんが何言ってるの」

ぜえせえと息を吐く空とソロにレティは苦笑して言う。

チルノ「うう…ホントにレティは強いよね…」

レティ「大丈夫よ、いつかは越えられるわ」

チルノ「そのいつかってどれ位かな…」

チルノの呟きにレティはそう言い、チルノがそう言うのとレティは頭を撫でていつかよと言う。

チルノLOVEズ「……………」

カイト「（指を啜えて羨ましい顔でレティさんを見てる…）」

ミア「（そんなに好きなんだね）」

その様子を見ているチルノLOVEズにカイトとミアは冷や汗を掻いたのであった。

ちなみに…

明久「き、きつかった…」

ムッツリーニ「……………同じく」

2人はちゃんと乗り越えられたのであった。

第3話：マリオ達の修行（後書き）

リュカ「今回は修行の風景だね」

ネス「後半はレティさんのターンって感じだったけど」

スネーク「そうだな…」

クッパ「明久とムッツリーニも大変だったのだ…」

第4話：敵に渡すな！キーKEYキープ！（前書き）

スネーク「今回は真王のリクエストに答えてのお話だ」

リンク「それですね…」

ルイージ「また内のキャラ登場」

マリオ「だな」

第4話：敵に渡すな！キーKEYキープ！

とある日の事…

ネプテューヌ「あれ？」

歩いていたネプテューヌは一回り大きいカギが墜ちていた。

ネプテューヌ「何だろこれ？」

首を傾げながらネプテューヌはその鍵を拾ってジロジロと見る。

すると…

????「貰った!!！」

謎の男達はそのカギをネプテューヌ奪い去って行く。

ネプテューヌ「何あいつ等！」

むかつときたネプテューヌは真王に知らせに走る。

真王「困ったな…どこに行ったんだ…」

ネプテューヌ「あれ？どうしたの理事長？」

理事長室に入ると困った顔をしている真王がいて、ネプテューヌは話しかける。

真王「ネプテューヌか…困った事があってな…そっちはどうしたんだ？」

ネプテューヌ「あのね、いらつとする事があつたんだよ！大きい力ギを見つけてさ、見ていたらいきなり知らない男達に取られたんだよ！」

その言葉に真王はまさか…と呟いた後に写真を取り出す。

真王「ネプテューヌ…もしやその力ギはこれか？」

ネプテューヌ「ん？…ああ！これこれ！」

写真を見てネプテューヌは指差す。

真王「やばいぞ！」

ネプテューヌ「やばいつて？」

真王「それは超次元学園の超金庫の力ギだ！」

鬼気迫る真王にネプテューヌは聞くとそう返される。

ネプテューヌ「ええ！？」

真王「やばいな…そいつ等に金庫の全てを奪われたら学園崩壊の危機だ！」

ネプテューヌ「それじゃあ早く見つけて取り返さないと…！」

真王の言葉にネプテューヌがそう言ってる頃

ソロ「何だこのカギ？」

空「見た事ないカギだな？」

チルノ「と言うか…超次元学園のマークが入ってるね」

ソロ達がカギを取り返していた。

ちなみにぶちのめした理由が何かしようと言うのが顔に出ていたから

男「そのカギ渡せ！！」

男2「あの学園の倉庫の中身で俺たちは儲かるんだ！！」

男3「馬鹿！何目的話しちやってるんだよ！！」

それに叩きのめされていた男達はガバツと起き上がって言う。

空「聞いたか？」

ソロ「ああ、なおさら渡せないな！チルノはそれを持って逃げる！
お前両手塞がってるし！！」

チルノ「分かった！！」

それぞれキーブレードとウルトラゼロランスを構え、空とソロは男達と戦い、チルノは逃げる。

その後ろを空とソロを無視した男達が来るが…

マリオ「おりゃあ！」

ルイーダ「とうー！」

フォックス「はっ！」

スネーク「ふん！」

マリオ達が現れ、男達を妨害する。

チルノ「皆！」

銀時「チルノ！それを絶対に渡すなよ！」

ネプテューヌ「運命がかかってるからね！！！」

チルノ「分かった！」

銀時とネプテューヌの言葉にチルノは頷いた後に駆け出す。

追いかけてよとする男達だが銀時たちにより先に行けない。

大丈夫と思った時に…

男4「いたぞ！」

チルノ「うわっ！？」

目の前の別の集団が現れる。

慌ててチルノは止まり、どうしようかと思った時…

ヒュウウウウウウ…

何かの落下音に集団とチルノが上を見ると…

ドオオオオオン！！！！

集団「ぎゃああああああああ！！！！」

集団が落ちて来たそれに潰された。

チルノ「あれ？キュレム？」

落ちて来たそれ、寝ているキュレムにチルノは目を丸くする。

片付けたマリオ達も寝ているキュレムに目を丸くする。

カイト「寝てるな…」

ミリア「落ちて来たのに…」

ファルコ「もしやこいつは…」

????「悪い事をする奴は許さないぞ！！」

カイトとミリアが言った後にキュレムを見たファルコが感づいた瞬

間にキュレムの頭に1人の少女が乗る。

銀時「おい、何かフェイトを小さくした奴だな」

レティ「あらあら」

少女「レヴィ「悪い事をする奴をぶった切る！雷刃の襲撃者！レヴィ・ザ・スラツシャー！参上！！」」

????2「何やってるんですかあなたは？」

????3「まったく…」

銀時の言葉の後にレティは困った顔をし、少女、レヴィはビシッと決めると空中から2人の少女が降りて来る。

ファルコ「ロードにシュテル、お前らも来てたのか…」

ビビ「えっ？知り合い？」

ふうと息を吐くファルコにビビは聞く。

レヴィ「ヤッホー、主にチルノあ！戻れキュレム！」

シュテル「私たちも来ました」

ロード「うむ、呼ばれたので来たのだ」

ファルコとチルノに挨拶してキュレムをスーパーボールに戻すレヴィを横目で見た後にシュテルとロードはファルコに言う。

ビビとグレイが驚いている間にさらに凄い速さで2つの影がファルコに抱き付く。

空「フランにお空も呼んだのか？」

マリオ「ああ、何でも来たかったらしいからまた頼み込んでな」

フラン「不動」

お空「うにゅ」

ファルコ「お前ら…突撃で来るな…」

ファルコに抱き付くフランとお空を見て空は聞き、マリオはそう言っている…

フォックス「これは…さらに楽しくなるな」

ネス「そうだね」

起き上がるつとする集団を気絶させながらフォックスとネスはそう言う。

こうしてカギは真王の元に戻り、学園崩壊の危機は免れたのであった。

その後、チルノとレヴィのぶつかり合いが良く見かけられるようになり、ガノンの所で相談するファルコの姿があったのであった。

第4話：敵に渡すな！キーKEYキープ！（後書き）

ネス「と言う訳で真王さんどうでしたか？」

リュカ「ファルコさん…大変だよね。」

スネーク「だな」

クツパ「うむ」

ワリオ「次回を楽しみにしとけよ」

第5話：強襲！！ギガレッグ！（前書き）

スネーク「真王のリクエストだ！」

フォックス「それと同時になめ猫のリクエストにも答える様だ」

ピット「けどなめ猫さんの最初のはギャグだよな？」

第5話：強襲！！ギガレッジ！

レヴィ達が来た翌日

????」（シクシクシクシクシク）」

空「ファルコ〜泣くなよ〜」

カービィ「そうだよ〜ほとんど女神化されての登場だったんだし…
ってか幻想卿では女性姿がデフォだったんだし諦めようよ〜」

体育座りして泣いてる女性に空とカービィがそう言う。

泣いてる女性はファルコン・ハート、ファルコが女体化＋女神化された姿なのだ。

なぜこうなっているかと言うとフランとお空…と言うかフランの姉、レミリアとお空の主、さとりからの伝言であった。

レミリア「フランがいるんだし、将来は幻想卿で住むんだから女性姿でいなさい」

さとり「あなたが男性だとは分かってますが…やはり女性姿の方がしっくり来るので」

ちなみにそれにフォックスや一部が笑った。

カイト「ファルコさん…大変だな…」

ミリア「そうだね。」

こなた「え、あの姿はなかなか萌えますな。」

かがみ「それが泣いてる原因でしょうが!！」

ファルコン・ハートを見て、カイトとミリアは冷や汗流しながら同情し、こなたの言葉にかがみは頭を叩く。

ソロ「やれやれ…ん？」

それに肩をすくめるソロだったがふと、上を見る。

するとメガレッグを4本足にしてもっと大きい姿にしたギガレッグが落ちて来た。

チルノ「何あれ!？」

レヴィ「デカイぞ!」

現れたギガレッグにチルノとレヴィが驚いた後にギガレッグの体に付いたキラー砲台からキラーが発射される。

ロード「撃つて来たぞ!」

ソロ「迎撃だ!！」

ロードの後のソロの言葉に遠距離攻撃が出来るメンバーがキラーを倒して行く。

そこに…

ドーン「ファルコ！頼まれた物が出来たであーる！」

ファルコン・ハート「ホントか！」

東「ばつちりだよ」

源外「お前さんの依頼通りに作つたぞ！」

ルイージ「何か作つてたの！？」

現れたドーン、東、源外の言葉にルイージが驚いた後にドーンが代
表でポチツとなと懐から取り出したボタンを押す。

フォックス「うおっ！？」

神楽「ぬおっ！？」

沖田「おっ？」

ヤルオ「おっwwwwww」

フォックスや上の3人の他1部がマジックハンドに掴まれると現れ
た人数分の砲台に入れられる。

入れられたのはレミリアとさとのりの言葉を聞いて笑った者達であっ
た。

ドーン「これぞ！『ファイアーフォックスをしてくたばりなクン』

であるー!!」

新八「うおおおおおい!! 思いつきり恨み晴らしたる!」

ファルコン・ハート「笑った奴は…」

ドーンの言葉に新八がツツコミを入れてる間に大砲から出ようとしてるが出れないメンバーにファルコン・ハートは渡されたボタンを持って言う。

ファルコン・ハート「ファイヤーフォックスやってくたばれ」

神楽「死ぬアル! 思いつきり死ぬアル!」

ザック「マジすいませんでした!」

黒い笑顔で言うファルコン・ハートに神楽とザックが代表で言った後…

ファルコン・ハート「安心しろ、ギャグだからしなねえよ ポチツとな」

フォックスを除いた入れられた一同「メタ過ぎや ああああああああああああ!」

フォックス「ファイヤー!!!」

ギガレッグに向かって発射され、フォックスを先頭に炎に包まれた一同はギガレッグを貫くと…

ドカーーーーーーン!!

ファルコン・ハート「きたねえ花火だったぜ」

ギガレッグは爆発し、飛ばされたメンバーが落ちてくる中、ファルコン・ハートを見てスマハツメンバー以外は思った。

一同「（絶対に怒らせない様にしよう…）」

離れた場所で

????「なっ、なんなんだよあいつ等!？」

????2「ギガレッグを簡単に倒すってありか!？」

慌てて走る集団がいた。

集団はギガレッグを使って超次元学園を倒して覇者になろうと考えていたがそれがあっさり破られたのに驚き、逃げているのだ。

マリオ「待ちな」

ギルシア「此処から先はいかせねえ」

ピット「ですね」

銀時「蹴りを付けさせて貰うぞ」

そんな集団の前に北斗の気に目覚めた様な気を纏ったマリオ、ギルシア、ピット、銀時がいて、集団は冷や汗を流した後…

マリオ&ギルシア&ピット&銀時「あたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたおわたっ！！」

集団「ひでぶっ！！」

4人のマシンガンの様なパンチを受けて集団の野望は途絶えた。

その後、弾丸になったメンバーはドクターによりすぐに回復したの
であった。

第5話・強襲！！ギガレック！（後書き）

リュカ「と言う訳でこう言う感じに終わりました。」

ピット「ファルコさん、大変ですね。」

リンク「ですね」

クツパ「次回を待ってるのだ！！」

第6話：消えた楓 前編（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエストだ！」

フォックス「ってか…楓ホントにコラボで普通に過ごした所を見た事ないんだけどな」

ネス「それには同意」

第6話：消えた楓 前編

マリオ「今日も平和だな」

ルイーダ「そうだね」

ギガレッグの一件から2日経った日、外を見ながらマリオとルイーダがそう言う会話をしていると…

バン！！

いきなりの音に全員がした方を見るとげえげえと荒い息を吐いた椀がいた。

空「どうした椀？そんなにあわ「楓のいる場所を知らない！？」うえっ！？」

空が代表で話し掛け、迫った椀の問いに驚いた後に首を横に振る。

椀は他のメンバーを見るが誰も分からないと答える。

椀「そんな…」

ソロ「どうしたんだ？楓に何があったんだ？」

落胆する椀にソロは聞く。

椀「帰って来てないのよ…」

マリオ「昨日からか？」

その言葉に椀は頷き、マリオはふむ…と顎を摩ると椀を見る。

マリオ「よし、楓探しをやるか」

銀時「じゃあねえな…」

ネプテューヌ「探そう!!」

マリオの後に銀時とネプテューヌが続き、他のメンバーもそれぞれ同意する。

真王に事情を話した後にマリオ達は楓の探索に出る。

ネス「と言うわけでやるよ」

リュカ「うん」

もし楓が学校に来たらの事で待機組の中のネスの言葉にリュカは頷いた後に目を瞑る

ネスとリュカは仮面ライダーWを受け継いでおり、それによりリュカはフィリップと同じ様に地球の本棚に入れるのだ。

ネス『キーワード言うよ、1つは音梨 楓』

そう言うと同時に本棚が減るがまだ多い

リュカ「次はどうする？」

ネス『うーん…音梨 桜』

次のキーワードにさらに絞られるがまだ明確なものが見つからない。

ネス『まだ見つからないか…』

悩むネスだったが桜の事である事を思い出して言う。

ネス『ナンパ』

その言葉について1つの本が残り、リュカはそれを取って見る。

空「見つからないな…」

ソロ「そうだな…」

ルカリオ「……………」

上のメンバーで楓を探し歩いている。

ソロ「おっ？マリオから連絡か」

携帯が振動し、それにソロは出る。

ソロ「もしもし？」

マリオ『朗報だ。どうやら楓をナンパした男を桜がボコボコにした

事から楓行方不明が始まった様だ』

空「あ〜…」

ソロ「楓を大事にしているからな…」

ルカリオ「（それ以外に好きだからだな）」

マリオの情報に空とソロはそう言い、ルカリオは心の中で呟く。

マリオ『もしかしたら椀へ痛い目に合わせたい為の人質にされてるかもしれない』

空「そうか…」

ソロ「それだったら楓がやばいな…」

マリオ『推測だからな…だがもしもあるから早く探すぞ』

そう言った後にマリオとの通話を終えると目を閉じていたルカリオは目を開く。

ルカリオ「音梨 楓の波動を見つけた」

こっちだとルカリオは走り、空とソロも後を追う。

楓の行方は…

第6話・消えた楓 前編（後書き）

リユカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト前編です」

フォックス「ホントな…こつ言つ関係が多いな…」

リンク「大変ですよね…」

第7話：消えた楓 後編（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト後編だ」

ネス「都合上、その前にあった人のは後回しにする事になりました

m () m

リンク「それで…」

ソロ「いきなりだったから驚いたぜ」

ルカリオ「うむ…」

変身を解いて楓を解放する栞を見ながら空とソロ、ルカリオはそう言う。

栞「ごめんね楓」

楓「はい？」

マリオ達と別れての帰りの道を歩く途中、栞の突然の謝罪に楓は栞に顔を向ける。

栞「ほら、ああなったのも私があいつ等をボコボコにしたからさ…だから」

その言葉に楓は栞を優しく抱き締めたのであった。

翌日

マロ「……………」

ジーノ「これは……………」

マリオが真王に許可を貰ったので超次元学園に来たマロとジーノは

冷や汗を掻く。

椀「さあ！誰が次にやられたいのかしら？」

DMとなった不良達に椀はビリーザロッドを弄びながらそう聞く。

マロ「弦太朗さんに見せられない！」

ジーノ「普通にそうだね。」

先代を思い浮かべて言うマロにジーノはそう言う。

マリオ「やれやれだぜ」

楓「椀！」

近くでマリオが肩を竦め、楓は目の前の状況に冷や汗を流すのであった。

第7話：消えた楓 後編（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんのリクエストでした」

スネーク「と言っかなぜにフォーゼにしようと思ったんだろっな」

フォックス「うんうん」

クツパ「次回を楽しみにしているのだ！」

第8話：こなたとかがみの探求心（前書き）

スネーク「今回はなめ猫のリクエストだ」

フォックス「萌えか…」

ネス「だね」

第8話：こなたとかがみの探求心

こなた「と言う訳で学園で1番萌えるのは誰なのかを探そうと思うのだよかがみん！」

かがみ「いきなりねあんた；」

カメラ目線でそう言うこなたにかがみは呆れる。

かがみ「んで…何でそんな事を？」

こなた「此処には色んな人がいるからね」と言う訳で行くよかがみ
「！」

かがみ「はいはい」

と言う訳で2人は其の場にいたルイージとジーノを巻き込んで皆を見まわって学園で1番萌えるのは誰なのかを追求に向かうのであった。

ルイージ「んで、誰から行くの？」

こなた「此処はやっぱり最近入ったチルノからだね」

かがみ「けど、どこにいるのか分かるの？」

諦めたルイージがそう聞くとこなたの言った事にかがみは聞く。

こなた「さっきレティさんに聞いたからこつちだよ」

ジーノ「はいね」

かがみ「こなたは決めた事には行動的ですからね」

駆け出すこなたにジーノはそう言い、かがみはそう答える。

チルノ「あれ？皆どうしたの？」

部屋に入ると遊戯王のブリザードプリンセスの服を着たチルノがいて、その周りでは鼻血を流して倒れる文と早苗を介抱しながら文のカメラで写真を取ってる大妖精と白蓮に服を作ったムッツリー二とジャンヌがいた。

なぜか文は指先に悔いはないですと血文字を書いていた。

かがみ「何か2名が死に掛けてるうううう!!!」

ルイージ「ドクタアアアアアア!!」

こなた「いや、まさか鼻血を流してるのを別の人のを見るとはね」

かがみ「まあ、確かにね……」

運ばれて行く文と早苗を見ながらこなたはそう言い、かがみは冷や汗を掻く。

ジャンヌ「いやあ、まさかあんなには思いもしなかったわ……」

チルノ「ねえねえ白蓮、何で2人は倒れたの？」

白蓮「それ程似合ってるって事ですよ。だから是非…」

早苗&文「やらせはしませんよ！！」

かがみ「復活はやっ！！」

ジャンヌが頭を掻き、首を傾げるチルノに白蓮は連れ込もうと声をかけようとして死にかけていたのもう起きてる2人にかがみは驚く。

その後、こなたとかがみ、ルイージとジーノは回って行く。

こなた「いや〜皆中々の萌えだよね〜」

かがみ「んで…誰があんた的に一番萌えなの？」

こなた「ノンノンかがみ、まだ見てない人いるじゃん」

ルイージ「それって誰？」

かがみの問いにこなたは指を振ってそう言つとルイージが聞く。

こなた「ファルコさんこと現ファルコン・ハートさん！」

かがみ「流石に止めなさい！」

ルイージ「そうだよこなたちゃん…」

こなたの言った事にかがみとルイージがそう言う。

こなた「大丈夫大丈夫、フランちゃんとお空ちゃんを見る名目で行くから」

ルイージ&かがみ「（大丈夫かな…）」

お気楽なこなたの言葉にルイージとかがみは不安げになる。

こなた「着いた着いた…んじゃあ」

かがみ「ちよっ、ノックはしなさいよ！」

平然と開けるこなたにかがみがそう言った後に…

パタン

閉めた。

こなた「いや〜お忙しい所でしたな〜」

あははと笑うこなただがその額には汗が流れていた。

かがみ「何を見たのよ…」

こなた「かがみ…ニヤンニヤンです」

かがみ「分かった。その一言で今部屋でされてるのが分かったわ」

疲れた顔で聞くかがみにこなたはそう言い、理解したかがみはそう

言う。

ルイーダ「んで…誰が1番萌えだったの？」

こなた「誰もが良かったけど…」

ルイーダの問いにこなたはそう言った後にかがみに抱き付く。

こなた「やっぱり私の嫁のかがみだね」

かがみ「ちょ!?!」

ルイーダ&ジーノ「(うすうす分かった)」

笑顔で言うこなたにかがみは顔を真っ赤にしてルイーダとジーノはそう呟く。

ちなみにその後、こなたはファルコン・ハートにアイアンクローを1発貰ったのであった。

第8話：こなたとかがみの探求心（後書き）

ファルコン・ハート「こなたの野郎…」 扉の方を向いていたので分かった。

お空「うにゅ？」 キスしていたので分かってない。

フラン「？」 吸血していたので同じく。

チルノ「次回を待っててね!!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5885x/>

超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

2011年10月24日13時58分発行